

公開講演会

奈良文化財研究所 第91回公開講演会

毎年、春と秋の2回にわけておこなわれる恒例の公開講演会が、2002年11月16日、平城宮跡資料館講堂にて開催されました。通例、奈文研に所属する研究員が交代で2名ずつ講演するのですが、今回は初めての試みとして、2名の研究員のほか、町田章所長が講演をおこないました。

講演はまず、町田所長が「考古学用語のあれこれ」と題して、考古学で通常もちいられる各用語の実際について講演しました。「音読みと訓読み」「古い言葉」「言葉の意味と異なる用例」という設問について、用語のいわれや伝承の仕方、ニュアンスの違いなどを経験談や事例を交えてわかりやすく説明され、好評を博しました。

つづいて、平城宮跡発掘調査部の金田明大が「歴史空間を地理情報で覗く」と題して、GIS（地理情報システム）と考古学分野での利用について講演しました。最近、脚光を浴びつつあるGISの原理を紹介するとともに、考古学への様々な利用について、実際に試みた成果を画面で表示しつつ、考え方や方法などを解説しました。

最後に、平城宮跡発掘調査部の平澤麻衣子が「巨大建造物は足元が肝心ー平城宮第一次大極殿の基壇ー」と題して、巨大建造物を下から支える基壇について、現在復原工事が進行中の第一次大極殿を題材に講演しました。基壇の外装や作り方について簡単にふれた後、第一次大極殿の基壇形態について、模型や実際の工事写真などを交えつつ、発掘遺構から基壇形態を復原する考察過程を説明しました。

今回、所長が講演したこともあり、会場が満員になるほどの盛況ぶりでした。

（平城宮跡発掘調査部 平澤麻衣子）



公開講演会ポスター